蒲田局
料金後納郵便
JBCC holdings

株主通信 <第53期 第1四半期>

JBCCホールディングス株式会社 〈証券コード：9889〉

差出人	東京都大田区蒲田五丁目37-1 ニッセイアロマスクエア15F JBCCホールディングス株式会社 経営企画、広報IR
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社

※本通信は2016年3月末時点での株主様にお送りしています。

01 OPEN トップメッセージはこちらから。

［ご注意］濡れている場合はよく乾かしてからめくってください。

第1四半期のトピックスをご案内します。

JB Group IT Forum2016を開催しました。

今年も5月に「JB Group IT Forum2016」を東京・名古屋・大阪の3会場で実施し、約2,400名のお客様にご来場いただきました。

「つながる!IoT×現場×Ecoシステム」をテーマに、人・モノ・情報など、あらゆるものがつながることにより、企業の経営・業務に新たな価値を創出し、未来につながるIT活用を、JBグループおよびパートナー各社とともに、セッションや展示を通じて具体的にご紹介しました。

また、基調講演には、ロボット学者 石黒浩氏を迎え「ロボットと未来社会」と題してご講演いただきました。

日経IR・投資フェア2016に出展します。

今年も、8月末に開催される日経IR・投資フェア2016に出展します。当日は、企業ブースでの当社紹介と社長による会社説明会を実施します。ぜひ、ご来場ください。

- 開催：2016年8月26日(金)～27日(土)
- 会場：東京ビッグサイト 東4ホール
- 主催：日本経済新聞社
- 企業ブース：44
- 会社説明会：8月26日(金)14:00～14:25 D会場

［公式サイト］http://www.nikkei-irfair.jp/

［IRメール配信サービス(無料)］のご案内

当社の業績など適時開示内容や当グループ内の最新情報をメールでお知らせします。配信をご希望の方は、下記よりご登録ください。

登録サイト http://www.jbcchd.co.jp/mail/

第52期定時株主総会を開催しました。

2016年6月16日に開催した「第52期定時株主総会」には、174名の株主様にご出席いただきました。議長からの第52期報告の後、質疑応答および議案の採決を行い、監査等委員会設置会社への移行等による定款一部変更の件など全議案が承認・可決されました。総会終了後には、当社役員との懇談会を実施し意見交換の貴重な機会となりました。

株主総会動画をご確認ください。

当社ホームページでは当日の資料掲載のほかに、会場の雰囲気を感じていただける動画配信を行っています。

［URL］http://www.jbcchd.co.jp/ir/bllibrary/movie/

JBグループのCSR

パラリンピック2020に向けて・・・

JBCCホールディングスは、2016年7月より「一般社団法人関東車椅子バスケットボール連盟」のオフィシャルサポーターになりました。競技大会会場での運営ボランティアとして参加するなど、引き続き、車椅子バスケットボールを応援してまいります。

一般社団法人関東車椅子バスケットボール連盟公式サイト
http://www.geocities.co.jp/Athlete/1737/kantoHP/index/

決算等の財務情報に関するご質問は

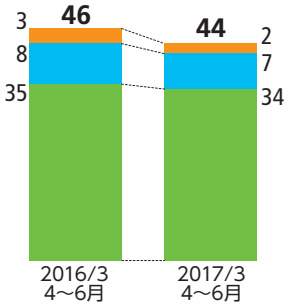
0120-887-652 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日除く)

e-mail：ir@web.jbcc.co.jp

※本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と大きく異なることがありますことをご承知おきください。

第1四半期の概況をお知らせいたします。

事業分野別売上総利益 (単位:億円)



■ **製品開発製造**
プリンターなどの情報機器及び当グループ独自のソフトウェアの開発・製造・販売

■ **ディストリビューション**
パートナー企業向けにハードウェア、ソフトウェア及びITサービスなどの販売、並びにITサプライ用品及びオフィス文具用品などの販売

■ **情報ソリューション**
企業の情報システムの構築及び運用保守サービス等を提供

情報ソリューション → 売上高133億59百万円(前年同期比9.2%減)

システム開発は、高速開発等の取り組みや不採算案件の解消に加え、利益率の高い案件の獲得によりビジネスが堅調に推移しました。クラウドビジネスは、順調な受注により利益面に貢献しました。サービスビジネスは、導入サービスやインフラ構築サービス等が堅調に推移したものの、保守サービスが減少しました。システム製品は、ストレージ(*)は堅調でしたが、サーバーやネットワーク機器のビジネスは減少しました。

ディストリビューション → 売上高67億7百万円(前年同期比1.1%増)

パートナーを通じてのシステム製品は、サーバー等のビジネスが低調でしたが、契約窓口となっているIBM製品の新規保守サービスが堅調だったことにより、サービスビジネスが増加しました。
ITサプライは全般的に需要が伸びず販売が低調に推移しました。

製品開発製造 → 売上高5億81百万円(前年同期比7.4%減)

主力製品であるインパクトプリンターのビジネスや、グループ会社を通じてのJBソフトウエア販売のビジネスが減少しました。
また利益面においても、為替変動に伴う原材料高騰の影響を受け低調に推移しました。

(*)ストレージ：外部記憶装置

トピックスはこちらから。

POSTCARD

ごあいさつ

平素は当社経営に一方ならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2016年度第1四半期が終了しましたので、連結決算概況をご報告いたします。

企業のIT投資については、大手企業を中心に回復が進むものの、当社の主な顧客である中堅企業においては、慎重な姿勢が続いております。

当社の第1四半期連結実績は、連結子会社アドバンスト・アプリケーション社売却やシステム製品の減少等の影響もあり、以下のように減収減益となりましたが、今年度の計画値との対比ではほぼ計画通りに進捗しております。

[売　上　高]	**206億48百万円**	(前年同期比6.0%減)
[営 業 利 益]	**3億38百万円**	(前年同期比18.7%減)
[経 常 利 益]	**3億68百万円**	(前年同期比15.7%減)
[親会社株主に帰属する四半期純利益]	**2億22百万円**	(前年同期比0.7%増)

第2四半期以降も引き続き、構造改革による収益の向上を推進し、システム開発における高速開発、クラウド基盤の確立、IoTサービス等、独自能力の強化に取り組んでまいります。

併せて、システム運用センター(SMAC)を中核としたサービス体制を強化し、クラウドセキュリティ運用サービスの充実も進めてまいります。

以上を踏まえ、2016年4月28日に公表いたしました第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想に変更はございません。

2016年6月16日開催の当社第52期株主総会決議ご通知とあわせて、株主の皆様に送付させていただいた「株主さまアンケート」に多くのご回答をいただきました。この場をお借りしてご協力いただきました株主の皆様に御礼を申し上げます。皆様からいただいた貴重なご意見は、今後のIR活動の参考にさせていただきます。

今後とも株主の皆様のご期待に沿えるよう、グループ一丸となって全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

2016年8月
代表取締役社長　山田　隆司

※今回のアンケート結果につきましては、第2四半期の株主通信にてご報告いたします。

配当・株主還元について

株主さまアンケートでもご質問をいただいております「配当・株主還元」について、当社はすべての株主様に利益を還元することが重要と考え、株主優待の実施ではなく配当の実施および自己株式の取得・消却により株主の皆様に利益を還元しております。
特に剰余金の配当については、経営体質の強化と将来のグループ全体としての事業展開を考慮しつつ、株主の皆様に安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。